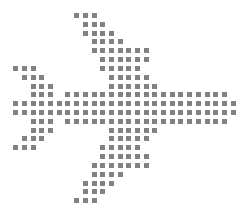


このニュースレターは、国土交通省が提案している羽田空港の国際線増便について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。



フェーズ 4 の説明会が始まります



国土交通省は、日本の豊かな暮らしを将来の世代に引き継ぐためには、世界との結びつきを更に深めていく必要があるとの考えから、羽田空港の国際線の増便のための取り組みを進めています。その必要性や実現方策についての情報提供のため、これまでフェーズ1からフェーズ3に分けて説明会が行われた他、ホームページやニュースレターなどを通じた情報提供も実施されています。説明会では意見募集も行われており、参加者からは、国際化の推進を求めるご意見の他、他の方策がないのかといったご意見や、騒音や安全性が心配といったご意見も多く寄せられています。国土交通省では、こうしたご意見や関係自治体等からの要望等を踏まえ、平成28年7月には「環境影響等に配慮した方策」を公表し、引き続き検討を進めています。

国土交通省では、羽田空港機能強化の取り組み状況を説明するとともに、新たに「環境影響等に配慮した方策」の進捗についての最新情報をお知らせするため、平成29年11月から平成30年2月の間、首都圏16会場においてフェーズ4の説明会を開催することとしています。

環境影響等に配慮した方策の進捗状況について 情報提供されます

説明会では、新飛行経路や、落下物対策などの検討状況に関する最新の情報（2～3ページをご参照ください）について、国土交通省の担当者から一人ひとりに詳しい説明が行われる予定です。また、説明会では、参加者からのご意見を引き続き募集することとしています。

	開催日	時間	会場
平成29年	11月1日(水)	14:00～19:00	京急蒲田駅 改札口外コンコース(大田区蒲田)
	11月15日(水)	14:00～19:00	川崎区役所大師支所 2階会議室(川崎市川崎区東門前)
	11月19日(日)	11:00～16:00	北とぴあ 地下1階展示ホール(北区王子)
	11月23日(木・祝)	11:00～16:00	タワーホール船堀 展示ホール2(江戸川区船堀)
	11月29日(水)	14:00～19:00	大崎ニュー・シティ 1階イベント広場(品川区大崎)
	12月6日(水)	14:00～19:00	品川インターシティホール棟 地下1階会議室3(港区港南)
	12月16日(土)	11:00～16:00	なかのZERO西館 美術ギャラリー(中野区中野)
	12月20日(水)	14:00～19:00	恵比寿社会教育館 1階大展示室(渋谷区恵比寿)
平成30年	1月13日(土)	11:00～16:00	光が丘IMA 1階光の広場(練馬区光が丘)
	1月18日(木)	14:00～19:00	新宿駅西口広場イベントコーナー(新宿区西新宿)
	1月21日(日)	11:00～16:00	上戸田地域交流センター あいパル1階多目的室(戸田市上戸田)
	1月24日(水)	14:00～19:00	アリオ北砂 1階アクアコート(江東区北砂)
	1月27日(土)	11:00～16:00	西部区民事務所 1階会議室(豊島区千早)
	1月31日(水)	14:00～19:00	サウスピア 1階多目的室(さいたま市南区別所)
	2月3日(土)	11:00～16:00	目黒区総合庁舎 1階レストラン(目黒区上目黒)
	2月17日(土)	11:00～16:00	向原ホール 2階レクリエーションホール(板橋区向原)

事前予約は不要で、開催期間中の入退場は自由です。

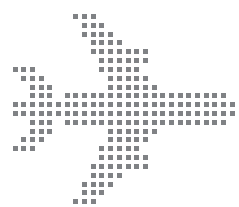


情報発信拠点が 順次開設されています

羽田空港第1ターミナルに設置されている常設の情報発信拠点に加え、移動型の情報発信拠点が各市区にて順次開設されています。情報発信拠点では、動画やタブレット端末で羽田空港機能強化の取り組み状況に関する情報が確認できる他、離着陸機の音の体験ができます。開設場所や期間などはホームページをご覧ください。



東京都庁に開設された時の様子（平成29年7月31日（月）～8月4日（金）に開設）



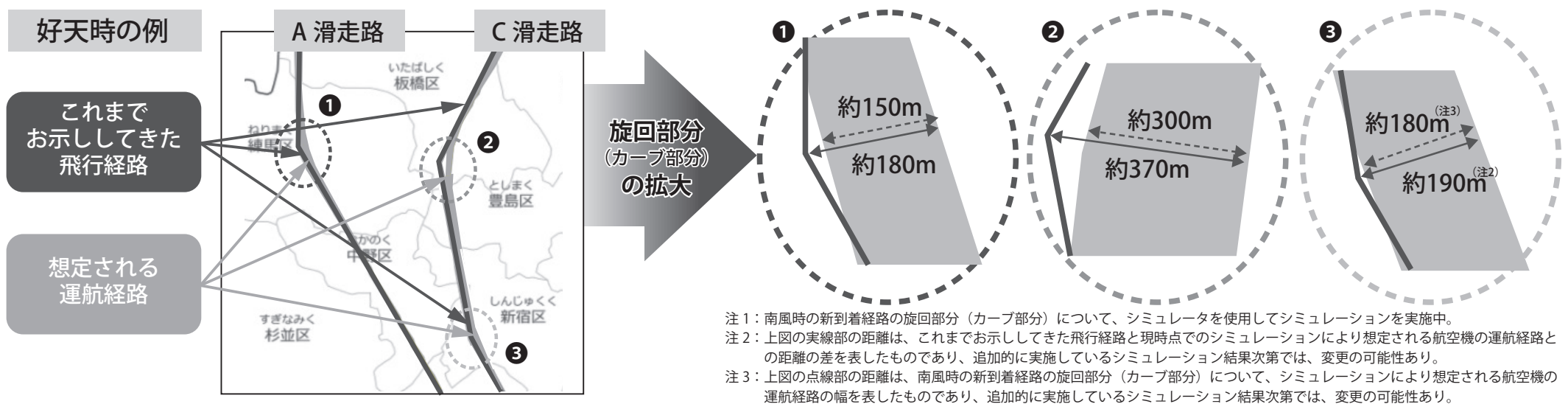
「羽田空港機能強化について」 進捗状況をご紹介します

新飛行経路に関する詳細な情報について

新飛行経路や、落下物対策など「環境影響等に配慮した方策」の具体的な検討が進められています。このうち、新飛行経路については、想定される航空機の運航経路にあわせ、旋回部分のより具体的な検討が進められています。

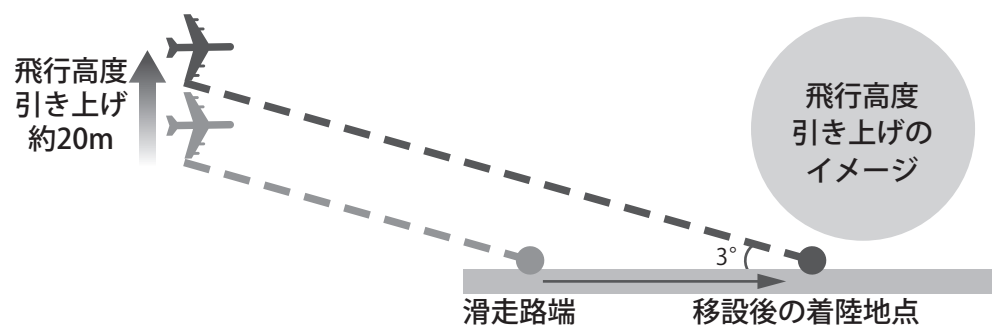
想定される航空機の運航経路（イメージ）

- 旋回部分(カーブ部分)では、航空機の運航に合わせ、一定の幅で飛行します。



飛行高度の引き上げ

- 関心の高い騒音軽減の観点から、南風時の新到着経路の着陸地点を海側に移設し、着陸前の最終直線部の飛行高度を引き上げること、航空機の音の影響を小さくします。



現在検討中の落下物対策について

落下物に関する最新情報や対策の検討状況については、説明会で詳しく説明する予定です。

国外の航空会社も含めた防止策の徹底

1. あらゆるチャネルを通じて、整備点検を充実させます

- ① 国外の航空会社も含め、羽田空港の乗入れ航空会社等の会議において、適切な整備や点検を徹底するよう、繰り返し指導していきます。
- ② これまで国、航空機メーカー、日本の航空会社の間で開催していた会議に、新たに国外の航空会社を招き、情報共有を徹底していきます。
- ③ 国際会議においても、乗入れする各国へ注意喚起していきます。



2. 駐機中の機体チェックを強化します

- ① 空港管理者による新たなチェック体制を構築します。
- ② 外国航空機に対する検査を強化します。今後、検査回数を増やしていく際に、成田空港と羽田空港を重点化していきます。



事案発生時の対応強化

1. 事案発生時の情報収集、原因分析を強化します

- ① 全国の空港事務所等に対し、落下物情報の報告について再度徹底します。また、警察にも協力を依頼しております。
- ② 事例を踏まえた原因分析を強化します。
- ③ 原因者の特定方法の充実や強化を図ります。

2. 航空会社に対する処分等の検討を進めます

- ① 落下物の原因者である航空会社(国内外を問わず)に対して処分等を行う方針です。具体的な内容や手続きは検討中です。

3. 救済制度の加入促進や見舞金制度の創設など、補償の充実に取り組みます

- ① 航空会社へ救済制度(保険)への加入を促進していきます。
- ② 見舞金制度の創設に取り組みます。

※ 今後、引き続き関係者との調整を進め、新飛行経路の運用開始までに対策を実施します。



「環境影響等に配慮した方策」の取り組み状況について

「環境影響等に配慮した方策」（平成28年7月）に示された取り組みについては、関係自治体や皆さまの多様なご意見等を伺いながら、具体的に進められています。

環境影響等に配慮した方策（平成 28 年 7 月公表）	現在の取り組み状況
運用の工夫 ● 南風時の新到着経路に係る進入開始の高度を上げ、騒音影響を小さくします ● 南風時に B 滑走路から出発する便数を削減し、騒音影響を小さくします ● 北風時の新経路に係る運用時間を後ろ倒しします ● 北風時の現行到着経路（陸域）での音の影響を緩和するため、富津沖海上ルート of 更なる活用を進めます	● 新飛行経路の巡回部分（カーブ部分）をシミュレーションし、想定される新飛行経路のより具体的なイメージを提示します ● 南風時の新到着経路の着陸地点を海側に移設し、着陸前の最終直線部の飛行高度を引き上げることで、航空機の音の影響を小さくします ● 富津沖海上ルート of 運用比率を高める対策を平成 30 年度からの開始に向けて準備を行っています
環境対策 ● 低騒音機の導入を促すため、羽田空港の国際線着陸料の料金体系を見直します ● 学校や病院等への防音工事の助成制度について、新たに基準を見直します	● 平成 29 年 4 月より、騒音要素を組み合わせた料金体系を開始しました ● 防音工事の基準の見直しに係る制度改正の今年度実施に向けた調整をしています。また、来年度からの防音工事着手に向けて概算要求をしたところです
安全対策 ● 安全監督等に万全を尽くします。羽田空港へ乗り入れる航空会社に対して安全対策の徹底を要請します ● 落下物の未然防止に万全を尽くすとともに、未然防止策の強化に取り組みます	● 落下物対策について、住民説明会での意見を踏まえて総合的に対策を整理し、充実させていきます。今後関係者との調整を進め、新飛行経路の運用開始までに対策を実施します ● 平成 29 年 1 月、国外の航空会社を含めて安全対策の依頼をしましたが、引き続き更なる安全対策の徹底を要請します。また、整備点検時の留意事項等をまとめたパンフレットを作成し、配布する予定です ● 平成 29 年 3 月、成田空港で空港会社及び国の職員によるチェックを開始しました。羽田空港でも国の職員によるチェックを実施します
引き続きの情報提供 ● 機能強化方策の進捗状況について、今後も引き続き、関係自治体等に情報提供を行います ● ホームページや特設電話窓口、市民窓口の設置など、丁寧な情報提供を行います ● 新たに騒音測定局を設置する等、騒音影響に関する監視や情報提供を行います	● 各都県連絡会にて、環境影響等に配慮した方策を含めた進捗状況を報告し、情報の共有を図っています ● 住民説明会をはじめ、特設電話窓口の拡充、情報発信拠点の設置、活用など、より丁寧な情報発信を行っています ● 飛行コース公開システムを改修し、情報提供機能の充実を図ります（平成 31 年度運用開始予定 ※一部は平成 28 年度末に実施済） ● 騒音測定局の 10 局増設に向け、周辺の騒音環境の調査を実施しています ● 来年度からの測定局増設に向けて概算要求をしたところです



提案されている飛行経路について（深夜・早朝帯以外）

北風時 （深夜・早朝時間帯以外 運用の割合は約 6 割（年間平均））	7 ～ 11 時半、 15 ～ 19 時のうち 3 時間程度 （新たな飛行経路）		南風時 （深夜・早朝時間帯以外 運用の割合は約 4 割（年間平均））
	それ以外の時間帯 （現行と同じ飛行経路）		
	15 ～ 19 時のうち 3 時間程度 （新たな飛行経路）		
	それ以外の時間帯 （現行と同じ飛行経路）		

- ※ 1：経路の実線は6,000ft（約 1,830m）以下。破線は10,000ft（3,050m）以下。
- ※ 2：南風時到着の 15～19 時は、経路の切り替え時間を含むため、実質 3 時間程度の運用。
- ※ 3：出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載（実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行）。
- ※ 4：南風の C 滑走路からの新出発経路については、検討が進み次第、状況をお知らせします。



フェーズ3の説明会が開催されました



説明会で寄せられた主なご意見

周知の一層の強化（もっと多くの人に周知を図ってほしい）

- インターネットや広報紙、メディアの活用など、様々な手段を使って、周知を図る工夫をしてほしい など

環境対策、安全対策の徹底

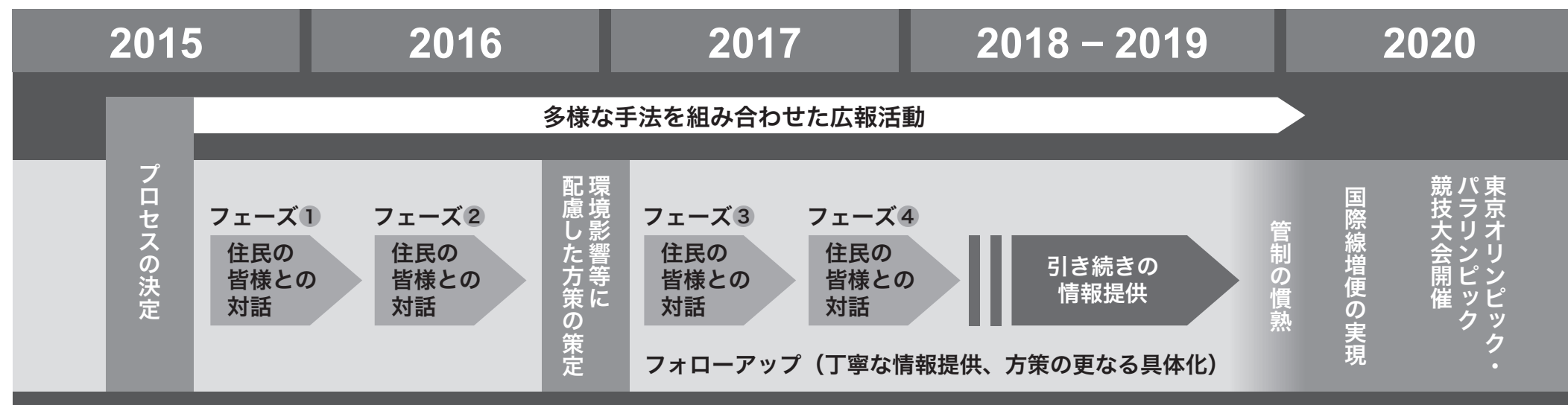
（環境への対策をしっかりとってほしい。安全対策を徹底してほしい）

- 滑走路の新設や既存滑走路の延伸、配置の見直しなどによって、将来的には更なる影響の軽減を図ってほしい
- 落下物対策をしっかりと行ってほしい など

その他

- 実際の音を聞いてみたいので試験飛行をしてほしい
- 新飛行経路の検討について進捗状況を示してほしい
- 深夜・早朝時をはじめ、羽田空港の交通アクセス充実に取り組んでほしい
- 機能強化とともに、宿泊施設や交通インフラ、国際交流拠点等を整備するなど、周辺のみちづくりを進めてほしい など

今後の進め方



フェーズ1 必要性や実現方策等

国際線増便の必要性や実現方策等について情報を提供。皆様の声から課題を整理し共有しました。

フェーズ2 対策や運用方法等

環境・安全対策、飛行経路の運用方法等、皆様のご意見を伺いながら、環境影響等に配慮した方策が検討されました。

フェーズ3 環境影響等に配慮した方策等

機能強化の必要性、実現方策等に加え、「環境影響等に配慮した方策」について、丁寧な情報提供が行われました。

フェーズ4 環境影響等に配慮した方策の進展等

引き続き、機能強化の必要性、実現方策等に加え、「環境影響等に配慮した方策」がどのように進展しているかについて、丁寧な情報提供が行われます。

様々な方法で情報提供が行われています

■ ホームページから

<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>

羽田空港のこれから

検索



ご意見フォームから直接投稿できます。



■ 電話でのご意見は

Tel 0570-001-160

（IP 電話からは、03-5908-2420）

『国土交通省「羽田空港のこれから」に関するご意見窓口』

受付時間：平日 9:30 ~ 19:00



■ ホームページに掲載されているバックナンバー



パンフレット
冊子



FAQ 冊子



展示パネル



ニュースレター
創刊号



ニュースレター
第2号



ニュースレター
第3号



ニュースレター
第4号



ニュースレター
第5号



ニュースレター
第6号



ニュースレター
第7号